

根室空襲犠牲者 追悼のつどい



7月15日、今年も「根室空襲犠牲者 追悼のつどい」が、鳴海公園の根室市平和祈念の碑の前で開催されました。根室空襲研究会とねむろ「九条の会」の共催で、空襲犠牲者の遺族など48名が参加しました。74年前の根室空襲犠牲者を偲び、恒久平和への決意をあらたにしました。

今年の「つどい」には、「東裕丸」に乗船していた方のご遺族が宮城県から参加した他、祖父が空襲で亡くなったという帰省中の子ども連れの若いご夫婦など、例年よりも多くの方々が参加されました。

本田俊治根室市議会議長は、「まちづくりの根幹は平和であること。我々も次の世代にこの悲惨な実態と恒久平和を伝える役割を担っていかねばならない」とあいさつしました。

根室空襲研究会会長の細川憲了さん(ねむろ九条の会「代表世話人」)は、追悼の言葉で、「根室空襲の体験者は時を追うごとに少なくも多数となっている。根室はまだ戦争は終わっていない。浦河丸や東裕丸などの徴用船も海底に沈んだまま。空襲犠牲者の実数も不明のまま。たくさんの方々のふるさとである択捉、国後、色丹、歯舞諸島はいまだに不法占拠されたまま、ロシアとの平和条約も締結されていない。私たちは正しい事実にもとづいた歴史を伝える責務を負っている。戦争のしない国、永遠の争いのない真の平和を求め、戦争の悲劇を再び繰り返すことの無い平和の社会の創造こそが戦争犠牲者の最大の「供養」とのべました。

また、仙台から参加したご遺族の方は、「戦争は私たちのような思いの子どもたちをたくさん作りだした。平和祈念の碑に父の名前を刻んでいただき、心の拠り所ができた。根室市民のみなさんに心から感謝したい」とのべ、亡き父への思いを替え歌にして参加者に披露しました。

根室市の高齢ドライバー 運転免許証の返納が増加

根室市では、2017年度から市交通共済保険に加入している75歳以上の方が運転免許証を返納した場合、タクシーチケットを支給しています。

2017年度では75件、2018年度は新規66件、そして今年度は7月23日時点で既に新規45件の申請があったそうです。自主返納を促し、市内の交通安全対策に大きな役割を果たしているものと思います。

今後運転免許や自家用車を手放す方はさらに増えていくものと考えられます。高齢者などの買い物や通院など生活に必要な「移動」をどのように確保していくのか、今後あらためて市内全体の公共交通のあり方をしっかりと検討する必要があります。



参議院選挙が終わりました。日本共産党は比例で1議席を減らしたものの、紙智子比例候補が4選を果たしました。北海道選挙区では多くのご支援を寄せていただきながら議席に届かず、申し訳ありませんでした。

今回ほど、くらしの切実な声が寄せられた選挙もありませんでした。「年金が少ないから70歳を過ぎても仕事をしたい」「17万円もの奨学金を借りている。返せるか不安」など、足を止めて演説を聞いてくださった方が多かったのも特徴的でした。

市民と野党が力を合わせる流れも強まりました。党の街頭演説で多くの方がマイクを握ってください、笑顔のエネルギーが広がりました。

全体として改憲勢力に3分の2の議席を占めさせなかったことは大きな成果です。

届けなければいけない声があるから

2019年7月22日 畠山 和也



共闘の流れは止まらないし、止めてはならない。この道こそ、新しい政治をひらく道!

寄せられた切実な願いを国政に届けるため、これまで以上に紙智子議員との連携も強めます。市民の運動を広げるためにも力を尽くしたい。

くらしが大変でも誰にも相談できない、仕方ないと思ってしまう、仕方がない、こういう方に、日本共産党の姿がより見えるような活動をしていきたいのです。

届けなければいけない声があるのです。

どんな結果でも、何度も立ち上がってきたのが日本共産党。

私も新たな決意で前へ進みます。